

🐾 議会で指摘したことが、その後どうなったのか？しっかり確認。 🐾

🐾 言っぱなしにしない、「発言の責任」 🐾

住民の方からいただいたご意見をもとに、必ず現場に足を運んで自分自身の目で現状確認を行い、その上で「今後どうするのか？」を行政に指摘しています。

たとえば、表紙面で書いた独居のおばあさんの件では、「農業委員会活動指導事業」で、「荒廃農地の指導と改善をどうしていくか？」を問うなどしています。「行政目線での指摘」と「目の前のお困りごとをどう解決するか」という住民目線での要請、さらにその後の対応の推移をしっかりと確認しています。



31年3月の  
進展！

市内交通全体を棚卸した  
計画の必要性を指摘  
22年6月議会

災害時、住民に正確な情報  
を届けるためのツイッ  
ターの導入を求める  
23年9月議会

的確に情報を拡散できる  
ソーシャルボタンを、市の  
HPに整備を要望  
28年9月議会

防災無線が聞き取れな  
かった時の電話問い合わ  
せ番号の周知を  
29年9月議会

30年建設消防委員会視察  
報告書に「交通全体の計画  
策定を求めたい」と提出

29年より  
大府市緊急情報ツイッ  
ターが運用開始

30年11月  
大府市ホームページ刷新  
で対応されず

防災ガイドブックに掲載  
(31年3月更新)

「公共交通網形成計画」策  
定に着手(31年度予算)

運用状況をチェックし、  
より積極的な活用を提言  
(3月一般質問)

指摘に対して31年4月に  
対応すると答弁(3月一般  
質問)

とくこのプロフィール

- 大東小学校学区在住。
- 1966年生まれ。刈谷北高校、愛知淑徳短期大学を卒業。
- 1987年 学校法人河合塾に就職。
- 1989年 出産育児のため離職。  
家業の文正堂書店にて業務全般、税務申告を担当。
- 2005年 (株)アベックス経理部勤務。
- 2007年 大府市議に初当選。以来3期12年無党派・無所属で活動。

SNSのお知らせ



たかばとくこ

# 大府市議会議員 たかばとくこ

特集

## 2020年は大府の プレミアムイヤー

3月一般質問  
活動のご報告

2019年 春号



しからみゼロ!  
0宣言

あなたの声が届く政治、  
大府をもっと前に。

たかばとくこ  
Obu City Councilor: Tokuko Takaba

大府と市議の「いま」をレポートする  
活動・議会REPORT

みんなの声をカタチに

3期目の任期最後の定例議会が終わりました。これまでの調査や研究の積み重ねを基礎に、質問のフォローアップと、皆さんからお聞きした声の中から、市側に問い、提案させていただきました。問い質したいことも、提案したいことも尽きずにあふれてきますが、時間と紙面の限りの中でセレクトしてお伝えします。

委員会で  
予算審査

市民の不安を解消するのが  
議員の大切な仕事のひとつ

私が所属する建設消防委員会は商工業、農業、道路や公園、消防、上下水道を担当しています。新年度予算審査では、14事業32項目の質問を行ないました。

「毎日、犬の散歩で横を通るのですが、鞍流瀬川に新しくできる飛び石施設は雨が降ったときが心配」「近所の農地が荒れ放題で、枯れ葉が飛んでくる。隣に住む独居のおばあさんが掃除に追われて見かねる」「うちの工場のまわりの宅地化が進み、宅地の中に工場があるみたいになってしまった。近隣との共存が悩ましい」など、いただいたご意見を一つひとつ丁寧に取り上げて、今後の対策と検討を市に求めました。

鷹羽 登久子



規制があり改善が難しい場合や、改善していくには時間がかかる場合もありますが、問い質すことは、市民が、議員が、「こういうことに不安や疑問を持っています」という意思表示です。

→次へ

# たかばとくこ後援会

あなたの声が届く政治、大府をもっと前に。

〒474-0011 大府市横根町羽根山203-102号  
本人直通! TEL 090-4776-5282 E-mail: teamtokuko@yahoo.co.jp

しからみゼロ!  
0宣言

## 東京2020を経済・産業活性化のチャンスに

オリンピックでは、大府にゆかりのある選手が活躍します。共和駅周辺は「金メダルのまち」として、日常でもまちづくりのキャッチコピーとして掲げ、パブリックビューイングやパレードへの参加など、我がまちの一大イベントとなっています。一方で、大会前後を通じて東京がさらに過密となり、イベント会場や宿泊先の不足などが懸念されています。これを東京一極集中から地方へ誘導するチャンスと考える向きもあるようです。

こうした背景から、セントレアに大規模国際展示場の整備が進められており、中京圏にもその活力を誘引しようとの動きもあります。セントレアも

海外からの玄関口として交流人口が期待される場所です。

**Q 東京2020を契機とした活力向上について。東京の混雑回避や、首都圏の施設が使えなくなることによる中京圏への影響を踏まえ、商工業、観光の活力向上につなげる考えは**

A 首都圏では大型展示会等が開催

できなくなると言われており、セントレアに愛知県国際展示場の建設が進められている。これらを追い風に、この地域における展示会等の取り組みが活性化し、首都圏と並ぶ国際的な交流拠点として地域産業全体の発展につながることを期待している。新たな国際展示場で市内企業の販路



セントレアに新たな集客施設として2018秋オープンした「Flight of Dreams」

開拓につながるような展示会、見本市が行われる場合には、市内企業による合同出展を計画するなど地域経済の活力向上につなげていきたい。また、知多半島観光圏協議会では、2019年度から県内外の旅行会社に積極的な営業活動を計画しており、知多半島の旅行商品の企画やパンフレットへの観光情報の掲載につなげ、誘客を図っていく。

## 市制50周年を市民力向上のキッカケに

大府市制50周年は、半世紀の大きな節目です。近年は大府に移住された新住民が増えており、大府を知り、大府に暮らす実感と親しみを持って、これまでの先人に感謝し、これからつないでいく契機として、行政主導のセレモニー的な扱いだけでなく、市民みん

なを巻き込み、期間集中型の多発的なキャンペーンにしていくことが望ましいと思います。市民とコラボして盛り上げていくには、コンセプトとスケジュールを踏まえた仕掛けが必要で、市当局はその事務局機能を担っています。2019年から機運を盛り上げる話題づくりなどを早々に仕掛けていく必要があります。

**Q 事業の計画はどうか**

A 今年度当初から全庁的に事業内容の検討を進めている。機運を高めるプレ事業は、市民参画による事業を中心とした文化・スポーツ・生涯学習の様々な事業を、新年度予算案に盛り込んでいる。2020年の本事業は、市内の団体等で構成する大府市制50周年記念事業推進委員会を組織し、新年度5月ごろから、コンセプトやシンボルマーク等の全体構想や事

業内容等の協議を進め、情報発信していく。

**Q 「市民主体で市制50周年を盛り上げていきたい」という市民の声も聞いている。市民サイドから50周年を考えてもらえるのはすごいことで、そうした市民の思いも込めた50周年になると良いと思う。記念事業の公募は具体的に考えているか**

A 今後広く情報発信し、応募してもらったうえで、市民主体の事業で、50周年の趣旨にあったものを冠事業とし、シンボルマークやロゴを使っていただくよう進めていきたい。

**Q 市制50周年と東京2020を契機とした活力向上へ、市の基本的な考えは**

A 2020年は、まちづくりの新しい指針である「第6次大府市総合計画」の計画期間が始まる節目の年であり、

「健康都市おおぶ」がさらに魅力と活力あふれるまちへと飛躍する契機になる年と捉えている。東京オリンピック・パラリンピックで本市ゆかりの選手たちの活躍により、まち全体が大きな熱気と感動に包まれることが期待される。「健康都市」のまちづくりの歴史と市民との協働の取組を基盤とし、次の50年に向け、行政とまちづくりの多様な担い手が一体となって、新しい価値を生み出す持続可能なまちづくりのスタートとしたい。(市長)

**Q 大きな節目となる2020年に寄せる市長の思いは**

A 市制50周年、東京オリンピック・パラリンピック、そして新しい総合計画が始まる年でもあり、非常に重要な年になると考えている。この3つをテーマに市で検討を進めているところであるが、キーワードとして、智慧の「智」の文字を使った「温故智新」、これを使ってスタートしていきたい。市の過去を振り返ってみると、文化、スポーツ、自然、農、工、商、さらに市民と、素晴らしい資源がある。しかし、

この資源の素晴らしさに気付いていない方もいて、十分に生かしきれていない面もある。改めて過去を振り返るとともに、新たなスタートを切るべく、いかにこの素晴らしい資源を次の50年＝100周年に向けて、「守りの持続可能なまち」でなく「発展的な持続可能なまち」に、伸びしろあるまちとして素晴らしい資源を市、市民全員で発揮していくスタートの年となるよう、重要な年であると考えている。(市長)

## やっていたなかった大府小学校の地下駐車場の耐震診断を！

### 改めて見直す地震対策

6月の大阪北部地震で、ブロック塀の倒壊により子どもの被害があったことから、全国一斉で点検が行われました。大府市でも施設のブロック塀の改修などの対応がなされましたが、ひとつ気になったものがあります。国や県から診断・改修が求められなかった施設の耐震性はどうなっているのか、ということです。

そこで大府小学校地下駐車場が目にとまりました。これは昭和55年に建築されたことから、耐震基準が大きく見直された阪神淡路大震災より古い建物です。上部は学校のグラウンドとして子どもたちが日々使っていますし、駐車場はもちろん人が出入りできるものです。市として安全を確認する必要があります。

**Q 大府小学校地下駐車場について、これまで耐震診断は行っているか**

A 法の規制対象に該当せず、現在に至るまで実施していない。40年以上が経過しており、建築主事の資格を持

つ職員による目視等の一次診断を実施したところ、特に問題になりそうな箇所は見られなかったが、新耐震基準以前の建物であり、耐震診断を含めた対応策を講じ、今後も良好な状態を保持していきたい。

**Q 「耐震診断を含めた対応」とは、耐震診断を行うということか**

A 一次診断では、一部課題があると

も聞いている。耐震診断を実施する方向で、具体的な検討に入りたい。

**Q 市の施設に半地下の建築物は他にないか**

A 大府中学校、共和西小学校の2か所にあるが、いずれも耐震改修の規制対象であったので、すでに対応済み。他に耐震性が不安なものはない。



▲耐震診断していなかった大府小学校地下駐車場。国や県から指示されていない箇所も、自らの視点で耐震の見直しをしっかりと実施していただく必要があります。